




目と身体と脳をつなぐ

ビジョントレーニング

【第7回】事例①視覚障害による課題とその克服

一般社団法人 日本ビジョントレーニング普及協会理事 横田幹雄


 板書が書き取れない
作図も苦手

今回より3回にわたって、皆さんの興味がいっばん高いと思われる事例紹介——つまり、ビジョントレーニングを行った特定の子どもの成果について紹介させていただきます。

A君の事例

○トレーニング開始当時は、小学5年生。

○学校で板書を書き取ることができない。算数の作図も苦手。日常生活では、エスカーレーターにうまく乗れないなどの課題がある。

○小学3年生のとき、大阪医科大学のLDセンターで「視覚障害」と診断される。

A君のお母さんと私たちが出会った場合は、当会が月1回開催している保護者向けの無料講座。子どもの運動能力と学習能力が「見るチカラ」と大きく関係していることを知り、相談に来られたのです。当時、「そろそろ

塾へ通わせようか」と考えていらっしゃるかもしれませんが、お伺いした普段の様子から「今、学習塾へ通わせるよりも、土台を整えることのほうが大事です」と申し上げ、トレーニングを受けていただく運びとなりました。

最初のころ、休憩時間に野球好きのA君とキャッチボールをして遊んだのですが、力いっばいボールを投げるとその場で転ぶ、力いっばいバットを振るとやはり転ぶということがありました。視覚機能としてのバランス感覚、体幹の発達、目と手の協応性など、多くの基礎感覚が育っていなかったのです。

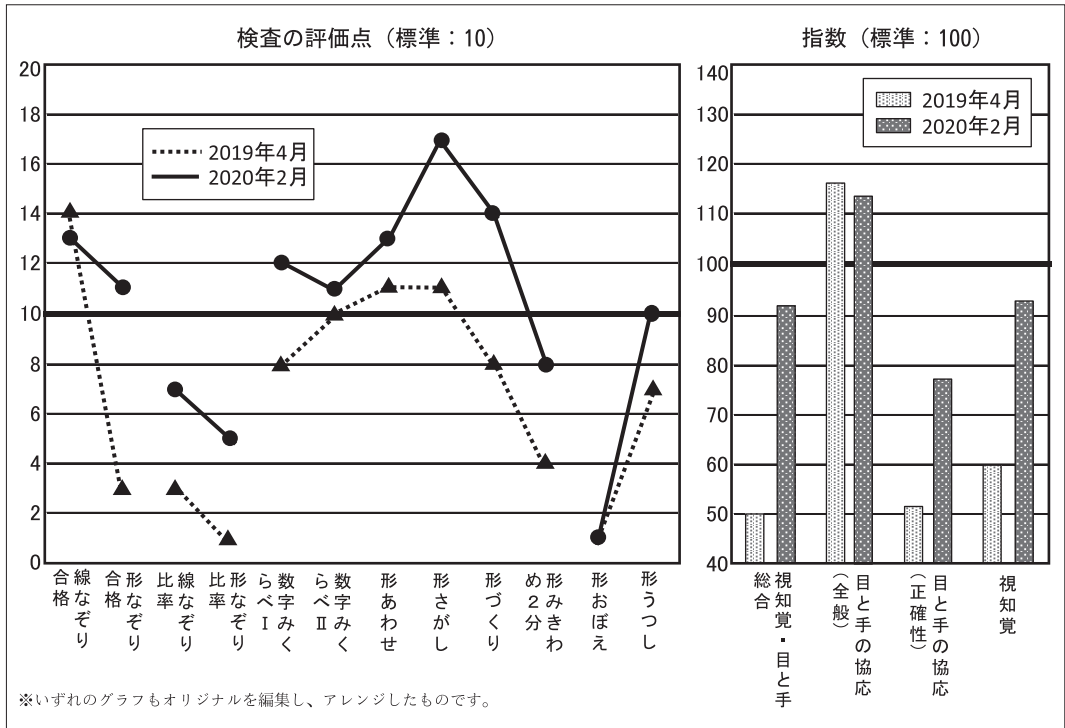
また、入会の際に行う「目の使い方チェック」で「複視」の可能性が浮かび上がりました。複視とは、両眼で見たときに物が二重になる視覚異常です。当会と提携している眼鏡店で検眼し、特注のプリズムレンズを付けた眼鏡に変えると、A君は「すごく見やすい！今までと全然違う！」と大喜び。これがきっかけとなったのか、それま

どとは見違えるほど身体の動きがスムーズになり、表情や言動が明るくなっていききました。

眼球運動トレーニングに対しても、「なんか楽しい！」と言って積極的に取り組むようになり、視点を合わせる、視線を切り替えるといった目の使い方がどんどん上達していきました。それまでA君は、まったく別のところを見ていることさえあったのです。集中力が高まったのにも見てとれました。

A君がこなしただビジョントレーニングは以下の通りです。
(週1回50分)

- ① 眼球運動トレーニング ▼10分
 - ② 目と身体をつなぐ基礎感覚・体幹トレーニング ▼30分
 - ③ クールダウンも兼ねた視覚認知トレーニング(プリント)、想像力・思考トレーニング(パズル、ブロック) ▼10分
- (①②③の具体的な内容については、これまでの連載を(参照))
- A君は、このすべてのトレーニングメニューにおいて、作業の正確さや速さが着実にアップ



していききました。半年経つころには、ボールを投げるときも、バットを振るときも、まったく転ばなくなっていたのです。

検査結果は 実生活にも現れているか

私どもは、トレーニングのビデオア&アプターを可視化するため、検査キット「WAVES」(学研)を使っています。これは大阪医科大学の奥村智人先生らが開発したキットで、視覚関連のスキルを10種の検査でアセスメントし、その子の弱いところを見つけ出すものです。

その結果が上のグラフですが、およそ10カ月のトレーニングで、ほとんどの項目が伸びていることがおわかりいただけると思います。特に手先を使って線を描く能力の「目と手の協応(正確性)」、そして、形を探し出す「視知覚」の速度が非常に伸びていることがわかります。実際の生活上の変化について、お母さんにお話をお伺いすると、まずエスカレーターにはスイス

イ乗れるようになったそうです。また、まったくできなかったバドミントンや卓球が、ラリーができるほどまで上達し、しかも打ち返すときの力加減も調整できていたのか。これは、視覚能力とともに運動能力も向上した結果と言えるでしょう。

学習面では、苦手だった作図を難なく克服。また、視覚に障害のある子には難しいとされる「点対称」も、問題なく理解できているそうです。

「以前は、この子、なんでこんなにどんくさいの? ってイライラしていたんですが、実は目が見えていなかったんだあつて……。最近、算数だけじゃなくて、漢字テストの点数も上がってきて、とってもびっくりしています。字もきれいに書けるようになったんですよ」

お母さんは、A君が苦手な次々と克服したことに驚きつつ、何より、何事にも明るく積極的に取り組むようになったことに、大きな喜びを感じていらっしやるようでした。